

タイヤ騒音規制検討会（第1回） 議事要旨

日時：平成25年2月15日（金） 13:30～15:30

場所：虎ノ門SQUARE 4階会議室

出席者；

【座長】 金子座長（東京大学）

【検討員】 石濱委員（神奈川工科）、伊藤委員（JARI）、江坂委員（検査法人）、
大野委員（自工会）、加藤委員（自工会）、坂本委員（交通研）、坂野委員（JATMA）、
牧野委員（JATMA）、松島委員（輸入組合）唯根委員（日整連）

【オブザーバ】 経済産業省製造産業局化学課、更生タイヤ全国協議会、自動車用品小売業協会

【事務局】 西本室長、高井補佐、藤本係長（環境省）、板崎課長、福島室長、吉田専門官、
甲斐係長、河村係長（国交省）、小池（JARI）

議事要旨

開会、趣旨説明

- ・ 事務局より、検討会委員、オブザーバおよび事務局のメンバーの紹介があった。
- ・ 事務局を代表して板崎課長（国土交通省）から挨拶があった。
- ・ 資料1-1「タイヤ騒音規制検討会の設置について」に基づいて事務局より検討会の趣旨説明があり、検討会の設置と金子委員に座長をお願いすることが了承された。
- ・ 金子座長の挨拶があり、金子座長の進行により議事が進められた。

議事：タイヤ騒音規制検討会の進め方について

資料1-2 タイヤ騒音低減対策について

本検討会の設置に至るまでの経緯について、事務局から主に第二次答申のタイヤ騒音低減対策の内容に基づいた説明があった。（質問なし）

資料1-3 タイヤ騒音規制の規制手法について

事務局から、規制手法についての考え方や課題等について説明がなされ、これに対して以下の点に関連する質疑応答があった。検討会においてはこれらの点についても考慮しながら、関係者からの意見聴取等を行いつつ、検討することとなった。

- ・ 使用過程車等の検査における基準適合性の識別方法
- ・ 輸入自動車特別取扱制度（PHP）に対する規制導入の時期
- ・ ユーザーにとって適切な規制のあり方

- ・ 認証マークがないタイヤの取り扱い

資料 1-4 タイヤ騒音規制に関連する国際的な動向について

事務局から、国際的な車両型式認証相互承認制度 (IWVTA) に関する国際的な議論の状況や、国際基準調和の観点から UN/ECE R117-02 (騒音、ウェットグリップ及び転がり抵抗の三要件を含む。) としてタイヤ騒音規制を導入することを検討している旨等について説明がなされ、これに対し、IWVTA の対象となるタイヤのカテゴリ等について質問があり、事務局から、IWVTA の対象が乗用車であることから、C1 クラスが対象であること、C1 クラスの区分はタイヤの安全性に関する国際基準 (UN/ECE R30) とセットで規定されている旨補足して説明があった。

資料 1-5 検討の進め方について

検討会の進め方について事務局から資料に沿って提案があり、事務局案が了承された。検討員より出されたコメント等は以下の通り。

- ・ 更生タイヤについては、普及率のトレンドが分かるとよい判断材料になるのではないかと。
- ・ 自動車ユーザーへの周知の方法が課題である。
- ・ 不適合品が市場に入らない公正な規制となることを要望する。

議事終了後、今後の検討の進め方について以下の点が確認された。

- ・ 次回の検討会開催については、委員のスケジュールを調整した上で、別途お知らせする。
- ・ WG によるヒアリングについては、人選、ヒアリング対象の選定等を含めて金子座長と事務局で相談の上進める。